

フジテレビ 『いつかこの恋を思い出してきっと泣いてしまう』番組制作責任者様

私どもは国家資格である「介護福祉士」の職能団体公益社団法人日本介護福祉士会です。

今回、当会に次のような内容のメールが届きました。

ドラマの設定や場面が介護職の人材確保に影響を及ぼす内容であるため、フジテレビ番組制作責任者様にも日本介護福祉士会としての意見を述べさせていただきます。

当会に届いたメール

『フジテレビの「いつかこの恋を思い出してきっと泣いてしまう」という番組で主人公が老人施設で過酷な労働環境（24時間勤務）、労働条件（月収14万円）の下で勤務し上司やオーナーからハラスメントまがいの仕打ちをされているというものが放送されていました。

実際、世間では3K、4Kと言われ労働環境や条件は過酷なものようですが、本当にそのような環境の下で皆さんは職務を行っているのでしょうか。そうであれば身内が目指している介護の資格取得をやめさせようと思っているのですが。』

当会の回答

『介護職員の給与は低賃金と言われていますが、かなり格差があると感じています。厚生労働省の発表している調査では、他産業の平均給与と比較すると介護職の賃金は低いと出ていますが、女性ではあまり差がないとも言われています。

どのような事業所に勤務しているのかによっても賃金の違いがでると思いますが、その他雇用形態や経験、能力などによって給与は違ってきます。私の知る限りでも養成校を卒業して、30歳代で管理職になり、それなりの報酬を得ている介護福祉士はたくさんいます。

また、労働環境のことですが、多くの事業所が働きやすい環境や職員の教育について真剣に取り組んでいると思われまます。確かに夜勤等をしなければならない事業所もあります。入所系の施設は夜勤者がいなければ、ご利用者に大きな迷惑や危険がおよんでしまいます。ただ、2勤務（16時間）するような場合も多いので、途中で休憩や仮眠がとれるようにしなければなりません。

多くのマスコミが介護や介護職に関してかなり偏った情報を流しているように感じています。確かにご利用者への介護の質が悪く、また職員の処遇もよくないところはあると思います。ただ、全部の事業所がそうなっているわけではありません。よくない事業所には利用する側も働く側もしっかり意見を言うなりしていかないといけないと思っています。入職する際も事業所の内容や職員の処遇、労働環境などをよく確認して頂きたいと思っています。

介護はおっしゃる通り3Kなどと言われますが、けっして単なる肉体労働のみという仕事ではありません。介護は、ご自分で生活や身の回りのことができなくなっている方を、少しでも改善させ、生きる意欲や喜びを感じてもらえるようにしていく仕事です。どのように介護するのか計画を立てるために、冷静にそのご利用者を見て、その状況を分析することが出来なくてはなりま

せん。

高齢で病気を抱えている方、障がいをお持ちの方、認知症の方などが、その心に抱える老いていく悲しみやさまざまなことが分からなくなっていく辛さを理解しながら私たちは支援していくこととなります。

この仕事は「人間性」や「考える」ということが求められるものです。人の命、生活また人生に関わる仕事ですので、辛いと感じるときもありますが、よい仕事だと思っています。お身内の方には是非とも勉強を続け、私たちの仲間になっていただきたいと強く願っております』

ドラマを作成している方は、介護の給与の低さや労働環境の悪さが言いたいわけではなかったことは十分承知していますが、影響の大きさも考えて頂きたいと思います。

今、介護人材の不足が叫ばれ、国を挙げてその確保・育成に取り組んでいます。御社ではそのあたりも考慮していただき、番組作りをして頂きますようお願いいたします。介護は決して夢のない仕事ではありません。この仕事に真剣に取り組み、一生をかけている人間もいることを忘れないでください。

また、「介護士」という言葉がよく使用されますが、そのような資格はありません。介護福祉士とも大変紛らわしいものです。介護福祉士ではないのなら、「介護職」などの言葉を使っていただきますようお願いいたします。

ご配慮いただけますよう宜しくお願いいたします。

平成28年2月10日

公益社団法人日本介護福祉士会 副会長 内田 千恵子